

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	伊賀上 菜穂		
NAME	IGAUE, Naho		

1. 研究課題

（和文）旧満洲コサック住民の社会的位置づけに関する研究：満洲国、および亡命ロシア人社会内部での評価について

（英文）Survey on the social positioning of the Cossack people in Manchuria: their evaluations in Manchukuo and within the communities of Russian emigrants

2. 研究期間

2019・2020・2021年度 ※2021年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により1年間延長

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）本研究は満洲国時代のコサックをめぐる様々な関係性を、①日本人との関係、②満洲国内の亡命ロシア人社会内での関係、③ヨーロッパからの視線、の3つに分けて調査・分析することを目指したものである。研究期間初年度には元白系ロシア人の方へのインタビューを行い、コサックとの接点について調査したが、その後は新型コロナ感染症の蔓延によって日本および海外での調査活動が困難となったため、入手可能な資料の範囲で研究を進めていくことになった。

具体的には、①の満洲国内での日本人（満洲国政府を含む）とコサックとの関係に焦点を当てて、満洲国時代に作成された日本語文学および文化映画を分析した。文学についての結果は、日本人とロシア人の結婚関係について分析した政策文化総合研究書叢書『ユーラシアにおける移動・交流と社会・文化変容』収録論文、および日本人のシベリア出兵観を分析した『セーヴェル誌』第37号収録論文に反映させた。

映画に関しては、三河コサックに関する映画『三河』（1939）と『アルグンのカザック』（1942）に注目した。両作品はフィルムの一部しか発見されていないが、今回は日本語文献やロシア語版フィルムを分析することで、映画の製作目的や上映範囲、日本語版とロシア語版の内容を比較することができた。これにより、ロシア語版ナレーションがロシア人志向で作られていた可能性、1941年の日ソ中立条約締結以降、コサックによるロシア奪還を語りにくくなった可能性が明らかになった。

（英文）

In this project, for the purpose of clarifying the social positioning of the Cossacks in Manchukuo, we mainly analyzed two Japanese-Manchurian films: “Trehrehchie” and “Argun Cossacks.” By tracing their development process and contents, we confirmed that the discourse on the relationship between the Cossacks and Manchukuo differed between the Japanese and Russian communities and that the conclusion of the Soviet-Japanese Neutrality Pact influenced the contents of the latter film.